



第26回 日本検査血液学会学術集会

形態診断のためのケースカンファレンス

【症例2】

【症例2】 60歳台 男性

主 訴 : 白血球増加

既往歴 : 高血圧症

現病歴 : 数年前から尿蛋白、腎機能低下を指摘されていた。数ヶ月前から下腿浮腫が出現し、腎臓内科で巣状分節性糸球体硬化症と診断された。

一方、IgA型M蛋白が陽性なことから、某院血液内科を紹介受診した。その際の骨髄検査では、形質細胞の増加はみられず、MDS-EB1と診断された。

数日後に急激な白血球の増加および末梢血芽球の出現を認め、精査加療目的で当院に紹介された。

【症例2】 検査所見

【血液一般】

WBC	40.4	×10 ⁹ /L
RBC	3.17	×10 ¹² /L
Hb	9.9	g/dL
Hct	31.1	%
Plt	98	×10 ⁹ /L
Ret	1.2	%
Myelo	20.0	%
Meta	7.0	%
Band	5.0	%
Seg	35.0	%
Lym	10.0	%
Mono	17.0	%
Eo	0.0	%
Baso	1.0	%
Blast	5.0	%

【凝固・線溶】

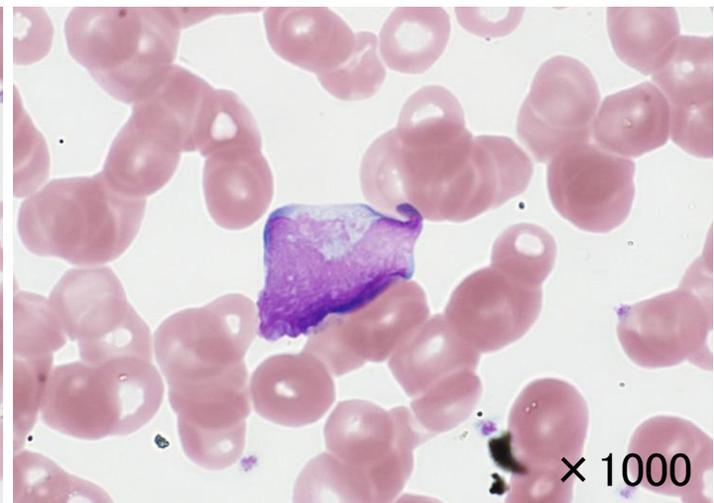
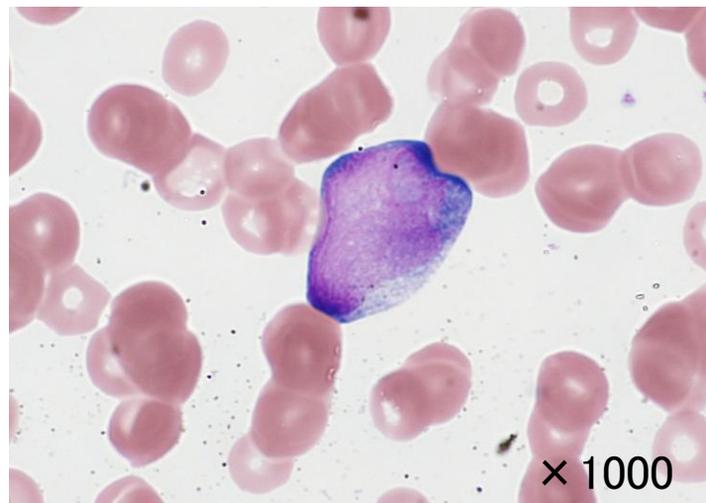
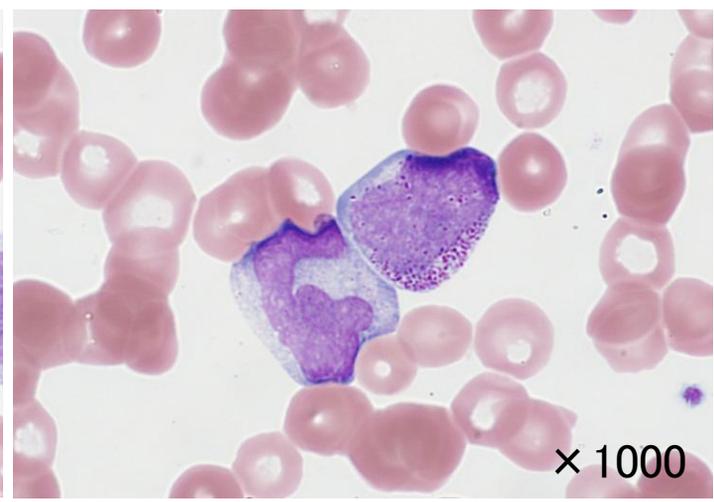
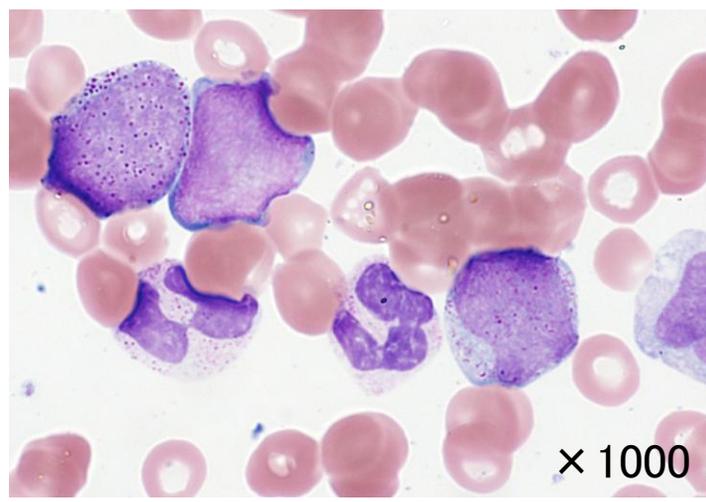
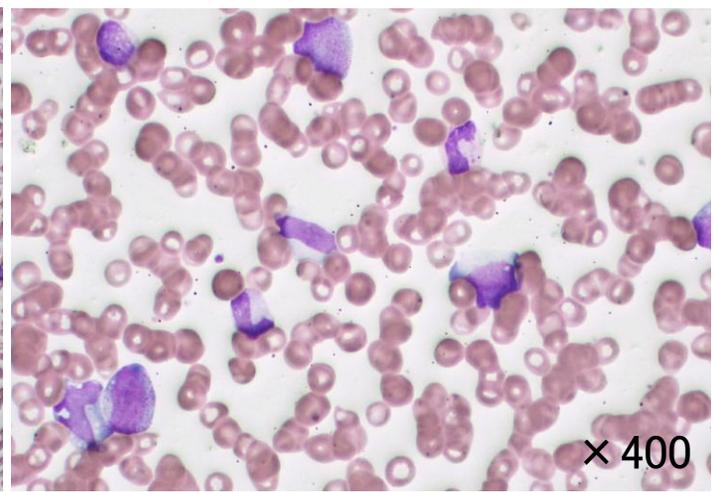
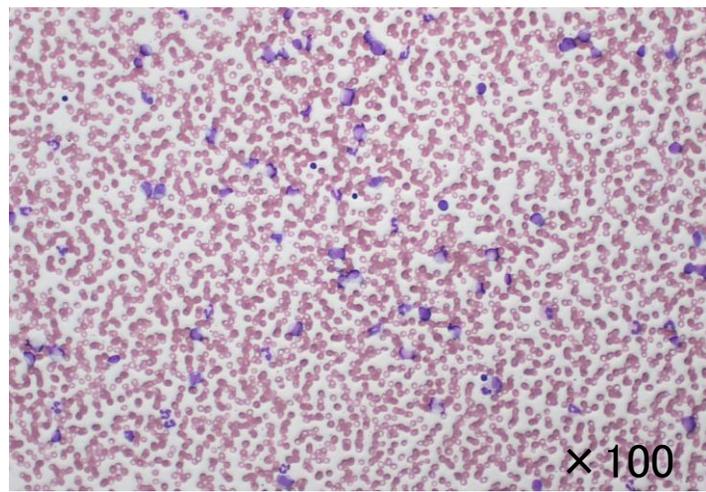
PT	11.9	秒
PT%	136	%
PT-INR	0.92	
APTT	30.1	秒
Fbg	347	mg/dL
D-D	11.8	μg/mL
FDP	NA	μg/mL

【生化学】

TP	6.1	g/dL
ALB	3.0	g/dL
LD	2587	U/L
AST	68	U/L
ALP	124	U/L
γ-GT	70	U/L
T-BIL	0.47	mg/dL
D-BIL	0.06	mg/dL
UN	33.7	mg/dL
CRE	2.11	mg/dL
CRP	0.08	mg/dL

【症例2】末梢血所見

<末梢血MG染色症例2>



【症例2】 骨髓所見

<骨髓MG染色 症例2>

